

天昇電気の平成31年3月期第2四半期決算

売上高は前年同期比8.1%増に

営業利益46.0%減、経常利益は36.7%減

天昇電気工業(本社・東京都町田市南町田五丁目3番65、042-788-1555、石川忠彦社長)は、このほど平成31年3月期第2四半期(平成30年4月1日〜同年9月30日)連結決算をまとめた。それによると売上高は、引き続き売上拡大に向け営業強化を図るとともに、生産工程の省力化、自動化等の生産性効果による原価低減に積極的取り組みできた結果、前年同期比8.1%増の81億400万円となった。

営業利益は前年同期比46.0%減の3億2,000万円、また経常利益は営業外収益に為替差益、営業外費用に支払利息を計上したこと等により同54.9%減の1億8,000万円となった。

セグメントごとの状況は次の通り。

【日本成形関連事業】 新型自動車生産開始に伴い自動車部品の売上は好調に推移した。また自社商品牌である雨水貯留浸透槽は1億5,200万円(同29.3%減)となった。

【中国成形関連事業】 中国国内では、物流産業資材及び機構部品を中心とした売上拡大に向け注力しているものの引き続き厳しい状況で推移した。売上高は1億5,200万円(同29.3%減)となった。

【不動産関連事業】 相模原市、伊賀市、伊那市の賃貸建物及び二本松市所在の土地から構成されており、売上高は1億5,100万円(同28.1%減)、セグメント利益は1億1,700万円(同29.3%減)となった。

【アメリカ成形関連事業】 アメリカ成形関連事業ではTV部品の売上が好調に推移し、売上高は3億5,300万円となった。第1四半期連結会計期間において子会社化に伴うのれんを一括売却した結果、セグメント損失は3,200万円となった。

【アメリカ成形関連事業】 天昇電気工業(本社・東京都町田市南町田五丁目3番65、042-788-1555、石川忠彦社長)は、このほど平成31年3月期第2四半期(平成30年4月1日〜同年9月30日)連結決算をまとめた。それによると売上高は、引き続き売上拡大に向け営業強化を図るとともに、生産工程の省力化、自動化等の生産性効果による原価低減に積極的取り組みできた結果、前年同期比8.1%増の81億400万円となった。

通期の業績予想

平成31年3月期通期の連結業績については、売上高は前期比6.1%増の165億円、営業利益は同31.8%減の8億6,000万円、経常利益は同29.3%減の8億2,000万円、親会社株主に帰属する同期純利益は33.3%減の5億4,000万円と予想している。

ワンストップでできる

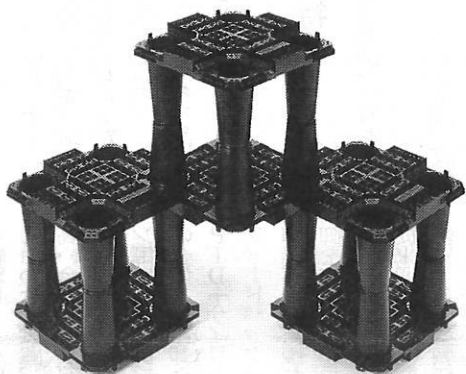
プラ成形加工の総合メーカー

天昇電気(TENSHO)は、豊富な経験とCAEを使った高度な金型設計から製造・販売までワンストップでできるプラスチック成形加工の総合メーカーで、業界トップクラスの技術力を軸に、企画開発から金型設計・製作、試作評価、成形・貯留浸透施設新製品である「テンレイン・スクラム」形、最終アセンブリーまで、社内での一貫生産により、ハイスピード&ハイクオリティな製品づくりを行っている。

独自の「華飾」を確立

TOM工法や水圧転写など

また、3次元表面加飾技術(TOM工法)や水圧転写(リアルプリント)といった華飾技術は、一般的な加飾とは異なり、独自の技術として、多種多様なものを華やかに飾る「華飾」として確立した。創業から80余年の歴史の中で培ってきた高レベルの成形技術と華飾技術の組み合わせ、成形品に「彩り」とともに「華やかさ」を新たな付加価値として加え、顧客のニーズ



雨水貯留浸透施設の新製品「テンレイン・スクラム」

見と技能を最大限に発揮し、TENSHOにしかできないものを形にする。天昇電気の躍進は止まらない。